



芦安中学校だより

第 17 号

校長 大石 浩雄

2026. 2. 9

あっという間に1月が終わり、2月に入りました。3年生は卒業に向けて、1・2年生は1年間のまとめと進級に向けて日々の学校生活を送っています。2月18日の授業参観よろしくお祈りします。

☆学校栄養士による食育 朝食の大切さ

1月23日(金)の給食の時間に北部給食センター栄養士の森本先生が来校して食育に関する講座してくれました。講座の中では朝食の役割や必要性について丁寧に話をしてくれました。生徒たちは給食を食べながら話を聞き、朝食を食べるという習慣が心身の成長に大きな影響を与えていることを学びました。



話は変わりますが、先日、市の健康づくり推進会議に委員として参加した際に、小中学生の朝食摂取状況が平成30年度と比べ悪化しているという報告を聞きました。主な理由として「食べるより寝ていたい」「食欲がわからない」「食べたり、準備するのが面倒」「食べる時間がない」といったことが挙げられていました。

じゅうぶんな睡眠をとり、時間の余裕を持って起床して、朝食をしっかりとることで意欲を持って1日のスタートをする。当たり前なのですがこうした習慣ができていない児童生徒が増加しているようです。今回の講座を聞いた生徒たちには、こうした習慣を大切にしてもらいたいと思います。

☆第3回学校運営協議会を実施しました

2月3日(火)の午後、第3回の学校運営協議会が実施されました。学校運営協議会は、コミュニティースクールとして地域とともにある学校をつくっていくために、地域代表、保護者代表、有識者と学校が集まり、学校運営について話し合う会議です。今回の主な内容は、今年度の振り返りとそれに基づく次年度の方針についてでした。2学期末に実施した教職員・生徒・保護者の各アンケートを基にした学校評価で今年度の成果と課題を

明らかにして、それをもとに令和8年度の学校経営方針を示し、委員の皆様承認していただきました。

この会議の中で話題になったことのひとつとして、「学校、保護者、地域住民が気軽に情報交換をしたりそれぞれの思いを伝えたりできる機会を増やせるとよいのではないか」ということがありました。私個人としては良いことだと思いましたが、同時にこうした機会を〇〇会議という形で位置付けてしまうと、会議の準備や運営が負担となってしまうことや公の場では話づらいことなどもあるだろうなども感じました。今後、どのような形でこうした機会をつくるのか、現在のところ未定です。ただ、芦安中学校では基本的に保護者と地域の方には常時学校開放をしているので、何か学校や生徒に関わることがあれば、気軽に足を運んでいただき話をさせていただけるとありがたいと考えています。



☆多様性社会に対応するために

現代は多様性の時代だと言われるようになってずいぶん時間がたちました。学校でもそれに対応した教育を進めています。世の中では、多様性を盾にしてルールを破ることを正当化するような主張を耳にすることがあります。一方でルールを盾に多様性を否定して同一化を強要するような主張も耳にします。社会や学校といった集団が進む方向についてどのように決めていくことが必要なのでしょうか。

学校では「正解ではなく、みんなの納得解を導き出す」ということを指導しています。その時にはポイントがいくつかあります。集団として目指す方向や重視する価値などについて共有すること。自分以外の人の感じ方や考えも聞くこと。自分にとって100点の答えでなくても決めたことを尊重すること等です。こうした取組は話し合いに時間がかかり、時に効率が悪く見えます。しかし生徒が将来社会に出たときに必須の能力と考え、取り組んでいます。そしてやがて「みんな違ってみんないい」と笑って言えるようになるといいと思っています。

